

なぜ大阪の芸人が、行政のオフィシャルリポーターに？

半田あかりさんは、松竹芸能所属の芸

人。大阪ではNHK「あほやねん！すきやねん！」などレギュラー番組5本を掛け持ちするタレントだった。それが一転、鹿

屋市役所の職員として広報役を担当し、「かのやオフィシャルリポーター」として働くのは、同市の福井逸人前副市長の発案から。福井前副市長は、鹿屋のことを広く知つてもらうには、テレビ経験があり、

リポーターがでて司会もできる、そんな専属タレントが必要と考え、松竹芸能に相談。そこで白羽の矢が半田あかりさんに立つたというわけだ。当の半田あか

りさんは「鹿屋に関して知識ゼロの状態でやつてきました。日本のフロリダ」と説明されました。が、私の目には「道が広く

て人がいない田舎」としか映りませんでした。でも、都会で育った私には何もかも新鮮で、カルチャーギャップも伴つてこれまでの人生とは別次元の体験を楽しんでいます」と、なかなかのお気に入りよう。

地方と芸人のくくりでいえば、吉本興業が地方に芸人を送り込んだ「住みます芸人」が有名だが、半田あかりさんがそれと異なるのは、地域おこし協力隊の一貫として市役所に籍を置き、PR業務を担っている点。松竹芸能としても鹿屋市

ようこそ、本土最南端ロードの途中の町へ！

鹿屋市地域おこし協力隊・
半田あかりが案内するこの町のいいところ



私の役目は、まだまだ全国区ではない鹿屋の魅力を一人でも多くの方に伝えること。食べ物も美味しいくてきれいな自然も沢山ありますが、の中でも必ず行つてほしいのは、海上自衛隊鹿屋航空基地史料館、荒平天神、かのやばら園の三つ。これらはどこの町にも負けない観光スポットです。食に関してもかなり秀逸で、鹿児島は静岡と並び、茶所としても有名ですが、鹿屋のお茶はその中でも美味。平成27年まで8年連続産地賞に輝いたほどで、深蒸し茶の産地として地位を築いています。通常の緑茶より長く蒸すことで渋みを抑えたまろやかな味が楽しめるんですよ。



としても実験的プログラムで、まさに「全國初」の試みなのだ。

志布志に着いた時、「じゃない半島へようこそ」との大隅半島を知らせるボスターにびっくりした。そうだが、仕事をしていくうちに徐々に意識も変化していく。鹿屋のカンパチを広めるために作られたカンパチダンスを市の職員たちと踊り、特産物をPRしていく日々にやりがいを感じ、今では鹿児島の有名人に。2016年春に着任して以来、10ヵ月でTV 26本、ラジオ 17本に出演して鹿屋をPRしたというから凄い。そして企画を立ててメディアに売り込むときは、敏腕広報マンさながら。やがて言葉まで大坂弁に鹿児島弁が混じりだし、今や地元民もどき(鹿児島弁検定の中級に合格)になってしまった。

「鹿屋市は牛・豚・鶏・魚・野菜・お茶と優れた品がいっぱいです、どれもとても美味しいんです。私はPR活動を通じてそんないいところを知つてもらわなければと思つています。カンパチの養殖も盛んで、本当に美味しいものが味わえるんです。カンパチダンスも幼稚園児から社会人まで浸透してきましたし、市のキャラクター、かのやカンパチロウもいつしょに頑張ってPRしており、観光だけではなく、地の産物の良さも合わせて広めていきたいですね」と語る。一時期、脚光を浴びた地域おこし協力隊だが、彼女ほどの成功例はなかなかお目にかかるないのでなかろうか。

「永遠の0」の世界が鹿屋で蘇る

「永遠の0」は、人気作家・百田尚樹氏が太平洋戦争時の戦闘機乗りの話を描いたもの。映画では岡田准一氏が、TVドラマ(テレビ東京)では向井理氏が主演して話題作となった。TV版の「永遠の0」は鹿屋でもロケが行われており、広末涼子氏や竜雷太氏らが鹿屋を訪れている。彼ら同様、私達多くの特攻隊員が飛び立った鹿屋の地で太平洋戦争の戦跡に触れ、平和への祈りを捧げたい。

■二式大型飛行艇

皇紀2602年に採用されたので二式飛行艇と名づけられた。飛行艇としては当時世界最高の性能を持ったものだった。戦後、米国が調査のために持ち帰っていたが、スクラップになる寸前に日本に昭和54年里帰りし、平成16年からここで展示している。同機は鹿屋から最初の特攻機をウルシー泊地(グアムの南西方面で片道2900kmあった)まで誘導していた。世界でたった一機だけ残っている貴重なものだ。



■S-61A救難機

S-61A救難機は、離島からの患者の緊急搬送などで使用されていた。HSS-2から対潜機器と武装関連装置を除いたタイプで、南極観測隊支援用ヘリとしても同じものが使われていた。上の二つの写真は操縦室とヘリ内部である。同館では機内に入れて見学できるようになっている。



航空マニア必見! これまで活躍した空の英雄たち



ここにも残る戦争の歴史



川東掩体壕

笠原基地跡に残る掩体壕。戦闘機などを爆撃から守るために造られたもので、戦時中にはこの中に零戦が入っていたといわれている。笠原基地には当時200基余りの掩体壕があったそうだが、今ではここにしか残っていない。

鹿児島県鹿屋市川東町8206-5
見学自由

令部が鹿屋に置かれ、特攻の命が下されるように。鹿屋は、日本で最も多くの特攻隊が飛び立った歴史を有しており、この地からも908名が出撃している。史料館二階には特攻作戦を示したもののが展示され、その尊い命を戦争に捧げた特攻隊員の遺影や遺書を見ることができる。明治維新で海軍が誕生してから終戦までの間に海軍航空隊がいかに進んできたかを学べるのがこの二階フロア。海軍精神に始まり、海軍航空隊の発展、航空兵力の興亡、特攻作戦と展示が続くので、戦争の知識が全くない世代でもその全容が理解できる。

戦時中、鹿屋には笠原・鹿屋・串良の三つの飛行隊があつた。そのうち鹿屋基地は海軍の主力基地。昭和16年には鹿屋会談が行われ、真珠湾攻撃の作戦計画が練られている。また終戦直後の昭和20年9月4日には、鹿屋に米軍が上陸している。このことから太平洋戦争は鹿屋で始まり、戦後も鹿屋で始まつたと言われており、鹿屋航空基地には大東亜戦争の縮図があると称される。

戦争が激しくなると、第5航空艦隊司令部が鹿屋に置かれ、特攻の命が下される

太平洋戦争の歴史に触れて
平和であることの大切さを考えたい

わたしがススメ! 三つの鹿屋

その1 一鹿屋航空基地史料館一

「永遠の0」とは…

現代に生きる佐伯健太郎がふとしたきっかけから祖父・宮部久蔵が特攻で亡くなった海軍航空兵だと知る。戦争で生き残り、祖父を知る人々に話を聞きながらその人物像を探っていくうちに宮部久蔵が凄腕の飛行機乗りで「必ず生きて帰る」と妻に公言していたことがわかる。そこで語っていた彼がなぜ特攻に散ったのか?作家・百田尚樹氏による太平洋戦争を描いた物語で、それまで放送作家として活躍していた百田氏の作家デビュー作である。講談社文庫刊。



■鹿屋航空基地史料館

自衛隊鹿屋航空基地入口にある史料館。海軍航空の歴史や今の海上自衛隊鹿屋航空基地に至るまでの歴史を紹介している。一階は海自航空部隊の役割と能力や、国防を支える人々と航空技術など自衛隊の広報的展示が主で、二階は主に海軍



航空の歴史について触れている。中でも特攻作戦を紹介したコーナーは圧巻で、特攻で命を落とした人の遺影や遺書が展示されている。屋外には唯一現存する二式大型飛行艇を始め、海上自衛隊で使用した戦機がいくつも展示されている。

史料館玄関奥にあるのが「夕映桜島」を描いたステンドグラス。原画は平山郁夫画伯の手によるもので、桜島を眺めながら飛び立った特攻隊員の心を思って描いている。

鹿児島県鹿屋市西原3-11-2
0994-42-0233
9:00~17:00(入館は16:30まで)
12月29日~1月3日 無料

こんなところにも
寄ってみて



■地下壕第一電信室

串良海軍基地から出撃した隊員が突撃前に送った最後の電信を受け取っていた場所。串良基地からは一般363名、特別210名、計573名が飛びたち、南の海に散華した。TVドラマ「永遠の0」のロケ地としても使用され、音声ガイド付きの案内板が備えています。今でもモールス信号を聞くことができる。

鹿児島県鹿屋市串良町有里4963-2
9:00~16:00 年末年始

■荒平天神

鹿児島県鹿屋市天神町4014(県道68号線沿い)

¥ 拝観自由

石段が途絶えたら、あとはロープついに登る。岩山の上には無人の社があるだけだが、それが洗練されておらずかえっていい。「きっといい事がありますように…」と祈ると、何となく叶いそうな気がしてくるから不思議だ。

そんな風に思える
神様はきっといる…、
神秘的な場所



わたしがススメ! 三つの鹿屋

一荒平天神一

その3



満潮時は社が海に浮かぶ 風光明媚さ

県道68号線を南へ。道路沿いの海側に突如現れるのが荒平天神である。干潮時は砂浜があり、鳥居がポツンと立つ。海に突き出たような島の岩山にはその社がある。数段の石段があり、途中からはロープを辿つて登る不便さ。少々登りにくくかろうが、せっかく来たのだから社まで辿り着きたいと汗をかきながら登る姿が目立つ。半田あかりさんの話では、最近馬ができたそうだ。…とはいっても無人の社なので観光協会であらかじめ買って持つて行き、願い事を書いて自分で奉納する。ここまでくるからこそ、なぜか願いが叶いそうな気がする。

荒平天神は、正式には菅原神社といふ。天神様だけに当然菅原道真を祀っている。創建は定かではないが、天文年間(1532~1555)と伝えられる。大正14年に炎上したが、木像のご神体は無事だったらしい。通常は砂浜を歩けるが大潮の満潮時には海水によって社までの道がなくなってしまう。大潮の満潮時に海に浮かぶ岩山(社)は、天神島と呼ばれている。その風景たるや、神秘的で鹿屋八景に数えられるのも理解できる。

「君は薔薇より美しい!」って キザな台詞が似合うかも…

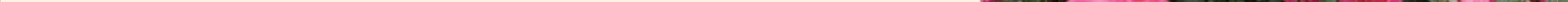
かのやばら園

鹿児島県鹿屋市浜田町1250 ☎ 0994-40-2170

時 9:00~17:00 (休 月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始

¥ 大人620円、小中高生110円(開花状況により金額を変更する場合も)

※バラは4月下旬~6月、11月~12月が見頃。※ばら祭り期間中無休



「ガーデニングブームの影響からか、バラに興味を持つ人が増えました。当園では、一年を通じた栽培方法をチラシにして配り、家庭での育て方の参考にしてもらっています」と同園ガーデナーの宮地秀作さん。葉が落ちたとか、虫がついたとかのアドバイスを求める人が年中絶えないらしい。



「ここは温暖な地なのでX'masでもバラが咲いています。12月22日~25日はX'masファンタジーナイトと題し、イルミネーションで装飾したり、花火を打ち上げたりしてイベントを盛り上げます」と霧島ヶ丘公園管理事務所の福元誠さんが教えてくれた。



園内には温室があるので、そこでは一年中バラの花が楽しめる。好みのバラを切って買っていく人も多く、一本咲きが150円、スプレー系が200円で販売されている。売店でバラの苗を売っているので、ガーデンを見て私も育てたいと買いためる人も多いそうだ。

バラがいっぱい 広大な地に

鹿屋市西部の丘に広がる「かのやばら園」は、花好きにとってはたまらない場所だ。市の直営施設で、平成4年から整備を行い、平成18年4月にグランドオープンとなつた。57ヘクタールある霧島ヶ丘公園のうち8ヘクタールがこのばら園で、広大な敷地を1500種

35000株ものバラで埋めつくしている。これは「花いっぱい風薫る丘」の季の花を咲かせようと計画から造られたもので、当時の市長が「花の女王といわれるバラを植えたらどうだろう」との発案から日本最大級のばら園が設けられた。イングリッシュユーローズガーデンや香りのガーデン、カラーガーデンなど9テーマに合わせてバラが咲き誇り、まさに花の香りで包まれる。中でも「プリンセスカのや」は、鹿屋オリジナルのバラ。大輪八重咲きで花びらは表が赤く、裏が白。香りも強く、四季を通して美しい花が咲く。

バラの花の見頃は春と秋。特に5月中旬は、沢山の花が咲き、一面が色づくほど。特にローズチャペルから見下ろすカラーガーデンの景色は最高で、「美」の一語につくる。

35000株ものバラで埋めつくしている。これは「花いっぱい風薫る丘」の季の花を咲かせようと計画から造られたもので、当時の市長が「花の女王といわれるバラを植えたらどうだろう」との発案から日本最大級のばら園が設けられた。イングリッシュユーローズガーデンや香りのガーデン、カラーガーデンなど9テーマに合わせてバラが咲き誇り、まさに花の香りで包まれる。中でも「プリンセスカのや」は、鹿屋オリジナルのバラ。大輪八重咲きで花びらは表が赤く、裏が白。香りも強く、四季を通して美しい花が咲く。

バラの花の見頃は春と秋。特に5月中旬は、沢山の花が咲き、一面が色

おいしい町・鹿屋の自慢の産物

かのやカンパチって?

かのやカンパチはスズキ目アジ科の魚で、成長するにつれ名前が変わる出世魚。ブリ、ヒラマサと並びブリ御三家と呼ばれるが、ブリではない。顔を見ると八の字に見えることから「間八」と名づけられた。成魚は1m前後の大きな魚で、刺身にして味がいいと評判。天然ものは高級魚だが、錦江湾ではむしろその養殖が盛ん。

中でも鹿屋市漁協は「かのやカンパチ」の名でブランド化を進めている。同漁協加工場の山道豊さんは「関西は魚種が多く、ブリの人気が強いので関東に多く出荷しています。東京ではおなじみのブランドになりつつあります」と語っている。ブリよりさっぱりめだが、脂が乗っている点がウケているとの話だった。鹿屋では稚魚から2年半～3年育てて3.5～4kgぐらいになれば出荷していく。沖には生簀が480台もあり、一つの生簀で3,000～5,000匹を養殖するそうだ。

■みなと食堂

鹿屋の市花であるバラの花びらの粉末を餌に混ぜて食べさせているのがかのやカンパチの養殖方法。バラに含まれるボリフェノール効果で健康に育ち、独特の臭みも抑えられている。「みなと食堂」では、毎朝6時に締めたカンパチを刺身にしている。

鹿児島県鹿屋市古江町7468 0994-46-3020 時11:00～14:00 月曜日(祝日の場合はその翌日)、12月31日～1月3日

漁協直営店で、イキのいいカンパチを

古江漁港にある「みなと食堂」は、漁協が直営している食堂。すぐそばの漁港で揚がった素材を使用して料理を作っている。名物となっているのがカンパチの丼。漬け丼(700円)とあぶり丼(800円)があつてそれが人気。その日の好みによつて注文する人が多い。かき揚げ丼(700円)は、小海老100%で揚げたものを載せており、パリッと香ばしい海老の旨さが伝わる。カンパチの刺身とあら焚き(もしくは小海老のかき揚げ)がセットになったA定食(1000円)や和洋折衷のB定食(1200円)がお得。

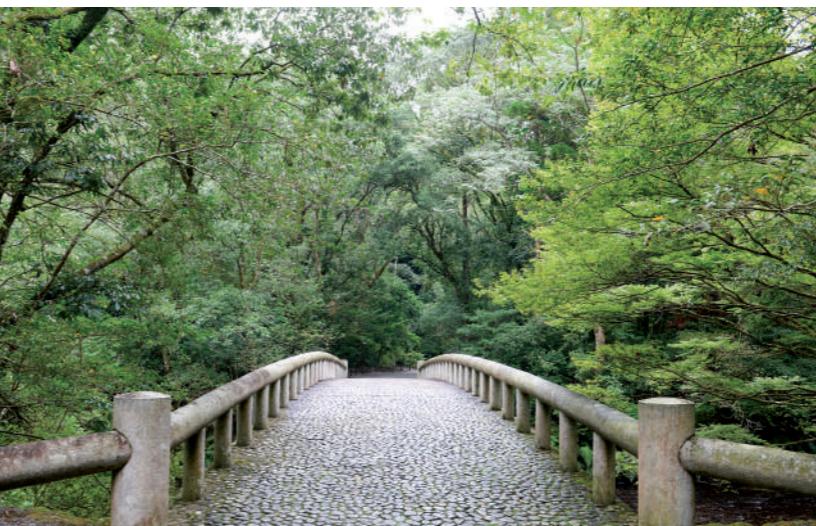
まだまだある鹿屋の見どころ 悠久の時を求めて…

■吾平山上陵

鹿児島県鹿屋市
吾平町上名5250-1
8:30～17:00
見学自由



吾平山上陵と書いて「あいらのやまのうえのみさざぎ」と読み、地元民からは「あいらさんりょう」とも呼ばれる。可愛山陵、高尾山上陵と並び、県下の神代三陵に数えられる。神武天皇の父・ウガヤフキアエズと母・タマヨリヒメの陵と伝えられており、全国でも珍しい岩屋の陵である。500m続く参道の雰囲気が伊勢神宮と似ていることから小伊勢とも呼ばれている。昭和10年には昭和天皇が、同37年には今上天皇が皇太子時代に参拝されている。

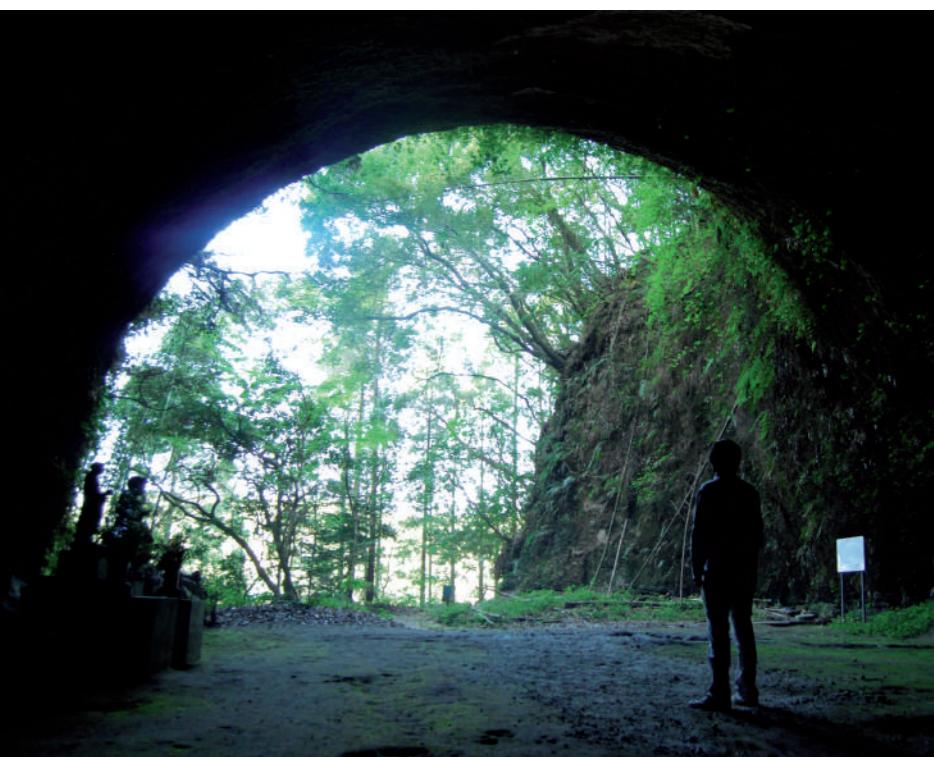


大隅には自然がいっぱい。川遊びができる猿ヶ城渓谷や名峰・刀剣山、そして色づくイチョウに映画シーンをなぜか思い出す垂水千本イチョウなどがある。鹿屋市に残る吾平山上陵や観音淵中世古石塔群は、古の時を思わせる場所。自然と相まって独特の雰囲気を醸し出すところへも立ち寄りたい。



■観音淵中世古石塔群

鹿児島県鹿屋市下高隈町
見学自由



観音淵は長い歳月をかけて地下水が取り出した天然の洞窟。高さ8m、幅16m、奥行30mの洞窟の中には鎌倉時代初期から戦国時代までの供養塔が約90基残っている。そのうち洞窟入口から見て右はこの地方の開田作業を進めた富山一族・長谷付氏のものと見られている。

洞窟の奥に入ると、ほぼ光が入らず、石仏が6体ある。その後ろの岩壁から水が染み出でて、音が洞窟内に轟く様が実際に神秘的である。

GOURMET

半田あかりが語る、まだまだある鹿屋の味

グルメな人も魅了してしまう
鹿屋の物産

モノがいいから、どんな風にしてもおいしいんだよねえ

▲鹿屋の三大焼酎といわれる「大海」「小鹿」「滝とろ」とともに芋焼酎で鹿児島らしさが漂る。

鹿児島は甘い醤油を用いる食文化圏。写真は久保醸造のさしみ醤油。

▲かのやばら園のレストラン「ローズダイナー」では、プリンセスかのやの花弁を原料にした「薔薇カレー」が名物。かのやばら園売店などで、土産物として売られている(善STYLE)。

鹿屋といえば芋と落花生が有名で、土産品としても人気がある。皮ごと塩ゆでにむいて食べる「塩ゆで落花生」は各家庭でも親しまれる鹿児島県民のソウルフードだ。

鹿の都・大阪からやつて来た半田あかりさんが住みついて鹿屋を巡るようになり思つたのは、同地の産物のレベルの高さ。牛肉は、和牛のオリンピックとも称される「第11回全国和牛能力共進会」で総合優勝を果たしたほどだし、豚も、ふくどめ小牧場で「幸福豚」と「サドルバック」を育成。豚肉として販売。さらにハム・ソーセージといった加工品も造つてゐるのだそう。「意外に思われるのは、そうめんの消費量が多いこと。夏になると、そうめん流しを楽しむ人も多いようだ。産地である関西も頗負けのそうめん好き」と言う。

鹿児島といえば、やはり芋だが、半田あかりさんの言葉を借りれば、「かのや紅はるか」はケーキぐらい甘いらしい。焼き芋にし

た時の糖度は今流行の安納芋よりもぐらい高い。甘いからといってしつこくなく、あつさりめ。肉質はしっとりとして農家でも作りやすいと、いいことづくめである。

「大海・小鹿・滝とろは、鹿屋の三大焼酎銘柄。中でも小鹿はクセが強く、それを湯割りで楽しむのがいいんです」とアドバイスしてくれた。ぜひ鹿屋の食材をつまみに一杯飲りたい。